

オオマルバノホロシ

Solanum megacarpum Koidz.
ナス科

【福井県カテゴリー】 新：県域準絶滅危惧 旧：—

【環境省カテゴリー】 —

選定理由

県内各地区で確認されているが、湿地環境の消失や生育条件の悪化が進行している。

分 布

北海道、本州（中部以北）に分布する。県内では小浜市、若狭町、美浜町、敦賀市、あわら市、越前市、鯖江市、坂井市、福井市で確認されている。

種の特徴

低地や山地の湿原に生える多年草。匍匐する根茎からつる性の茎を伸ばす。葉は卵形または狭卵形で短くとがる。葉身は長さ4～9 cm、幅2～4 cm。8～9月、茎の途中からまばらに分枝する集散花序を出す。液果は楕円形で赤色に熟し、長さ12～15 mm。

生育を脅かす要因

河川改修、湿地開発。

参考文献

| 市 町 別 生育情報 | 若狭町 | おおい町 | 高浜町 | 美浜町 | 小浜市 | 敦賀市 | 越前町 | 南越前町 | 池田町 | 永平寺町 | 坂井市 | 越前市 | あわら市 | 鯖江市 | 勝山市 | 大野市 | 福井市 |
|---------------|-----|------|-----|-----|-----|-----|-----|------|-----|------|-----|-----|------|-----|-----|-----|-----|
| | ○ | | | ○ | ○ | ○ | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | ○ |

アブノメ

Dopatrium junceum (Roxb.) Buch.-Ham. ex Benth.
オオバコ科

【福井県カテゴリー】 新：県域準絶滅危惧 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】 —

選定理由

水田や管理された休耕田を生育環境とするが、除草剤の使用や圃場整備によって減少した。

分 布

本州（福島県以南）～沖縄に分布し、県内では奥越を除く各地域で確認されている。

種の特徴

水田や休耕田等の湿地に生える一年草。茎は高さ10～25 cm。下部の葉は狭長楕円形、長さ10～25 mm、幅3～5 mm、上部ほど葉は小さい。花期は8～9月。葉腋に1花をつける。花冠は淡紫色、長さ5～6 mm。球形の果実が対になってつき、アブノメ（蛇の眼）を連想させる。

生育を脅かす要因

圃場整備による水田の乾田化、管理放棄。

参考文献

| 市 町 別 生育情報 | 若狭町 | おおい町 | 高浜町 | 美浜町 | 小浜市 | 敦賀市 | 越前町 | 南越前町 | 池田町 | 永平寺町 | 坂井市 | 越前市 | あわら市 | 鯖江市 | 勝山市 | 大野市 | 福井市 |
|---------------|-----|------|-----|-----|-----|-----|-----|------|-----|------|-----|-----|------|-----|-----|-----|-----|
| | ○ | ○ | ○ | | ○ | | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | | | | ○ |

フトボナギナタコウジュ

Elsholtzia nipponica Ohwi
シソ科

【福井県カテゴリー】 新：県域準絶滅危惧 旧：—

【環境省カテゴリー】 —

選定理由

生育地、個体数とも極めて少ない。

分 布

本州（関東地方西部以西）、九州に分布。県内では嶺北地方の一部及び嶺南地方の一部で確認されている。

種の特徴

山地の道ばたに生える一年草。茎は多く分枝し、高さ30～60 cm。葉は長さ2.5～7 cm、幅1.5～4 cm。9～10月頃、長さ2～5 cm、幅約1 cmの花穂に、長さ4～5 mmの淡紅紫色の花が付く。苞は中央よりやや上部が最も広く、背面に短い軟毛がある。

生育を脅かす要因

土地造成、道路工事、管理放棄等による生育環境の消失や悪化。

参考文献

佐竹義輔ほか（1981）、福井県自然保護課編（2004）

| 市 町 別 生育情報 | 若狭町 | おおい町 | 高浜町 | 美浜町 | 小浜市 | 敦賀市 | 越前町 | 南越前町 | 池田町 | 永平寺町 | 坂井市 | 越前市 | あわら市 | 鯖江市 | 勝山市 | 大野市 | 福井市 |
|---------------|-----|------|-----|-----|-----|-----|-----|------|-----|------|-----|-----|------|-----|-----|-----|-----|
| | | ○ | | | ○ | | | | ○ | | | | | | | ○ | |